

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記大)】			
事業所番号	4270500491		
法人名	医療法人 牧山医院		
事業所名	グループホーム ライフ		
所在地	長崎県大村市宮小路2丁目1408番地		
自己評価作成日	令和3年10月1日	評価結果市町村受理日	令和4年1月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和3年11月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

診療所併設で、医師、看護師との連携もとやすく、充実した医療を受けながら生活を送ることができます。
古民家を改修したホームの為、利用者様にとっても馴染みやすく、家庭的な雰囲気環境を提供することができています。同じ法人内の作業療法士より指導を受け、機能訓練をおこなったり、協力関係の歯科医院から毎月、口腔内に対しての助言及び指導を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大村市の中心部、ホーム周辺には小学校や保育園など教育施設もほど近い住宅地に当ホームは開設16年目を迎えた。母体は地域医療や地域福祉に重点を置き実践し、家庭的な雰囲気の中で入居者の体調の変化に対し細かな対応がなされている。ホームは家族との会話を通じて不安を取り除き、入居者や家族へ丁寧な関わりに努めている。医療機関と併設した住環境であることは、入居者にとっても負担なく受診や必要な検査を受けることができ、介助者は医師や看護師からの助言や指導を受けながら専門性の理解や業務の幅を広げる事にも繋がっている。感染症予防の観点から積極的な外出は控える状況にあるが、建物内には通所施設を併設し、入居前に繋がりがあつた地域住民と交流の機会を持つこともできた。心身ともに安心感を持ち過ごせるホームである。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 グループホーム ライフ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	診療所併設という安心感の中でゆったり楽しい生活をしていただけるように、職員全員が理念に基づき実践につなげている。	ホーム理念を玄関に掲示し、職員採用時や日常的な関わりの中で理念の振り返りを行っている。年2回の自己評価では入居者への支援に対する姿勢を確認し、管理者との個人面談や職員ミーティングの中で支援の方向性を話し合い、職員それぞれが理念の実践に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ前には、花祭りや敬老会への参加を促していたが、コロナの流行により各ホームで利用者様と職員のための開催となり、交流ができていない。	現在はコロナ禍で地域との関わりが難しい現状にあるが、入居者と地域への散歩の折には住民との挨拶を大事にし、顔が見える関係作りに努めている。感染状況が落ち着いた際には地元高校の実習生受け入れの予定もあり、認知症介護への理解に繋げている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	令和2年度に高校生に対しての福祉施設説明会を同じ法人内の職員3名で参加し、グループホームの説明やライフでの行事、1日の流れなどを話しました。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの流行により書面にて2ヶ月に1回のペースで行っている。メンバーに新しく薬剤師にも参加していただき、いろいろな意見が取り入れられるよう取り組んでいる。	運営推進会議は書面会議としている現状にあるが、事前資料でホームでの暮らしぶりを写真で可視化し、分かりやすく伝える工夫がなされている。返答コメントや電話でのやりとりで意見を集約し、参加者からの意見には丁寧に返答しながら運営の透明性を図っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	長寿介護課とは運営推進会議を通してホームの状況を説明すると同時に、いろいろな意見交換していると共に、コロナ禍で流行が収まり始めた際には、介護相談員とボランティアの方が来られケアサービスの取り組みながら、協力関係に努めている。	市の長寿社会課職員とは運営推進会議を通して入居者の状況やホームの現状を伝えている。また、介護相談員の受け入れで入居者の声を集約し、課題発生時には関係機関への速やかな相談を行いながら入居者が安心できる暮らしの実現に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	転倒の危険性が高い利用者様に対して、臥床時に感知式センサーの使用を、家族様の同意をいただき設置している。毎月のミーティングにて感知式センサーの必要性を話し合い、転倒予防に努めている。	職員は「拘束をしない」姿勢で支援に努め、入居者の行動の理由の把握や住環境を整えながら、拘束のない暮らしの実現に繋げている。身体拘束適正化委員会は運営推進会議と同時に開催し、外部からの視点での確認や助言を受けている。ホームではヒヤリハットを通して転倒予防に努め、拘束のない暮らしに努めている。	ホームでは身体拘束への弊害や、身体拘束適正化委員会を通して関わる姿勢についての理解はあるが、年2回の研修実施状況が確認できなかった。今後、研修の機会を設け不適切な関わりがない取り組みを継続できるよう希望する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様の皮膚の状態を確認することにより、変化がないか確認をし、何かあった際には職員間で話し合い、虐待が起きないように、常に注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今現在、成年後見人制度を使用している利用者様はいない。職員間でも内容をよく理解できていない職員もいるので、研修や勉強会を通じて学ぶ機会を設けていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の際、管理者が契約をおこない、文面だけではなくわかりやすいように、ライフでの取り組みを交えながら説明をおこない、質問やわからないことが無いかな訪ねながらおこなっている。法改正があった際など書面にて説明をし同意をもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱の設置している。 相談や要望などあった際には、職員間で周知を対応している。家族が相談をしやすいうように努めているが、相談や苦情を言いにくい際には、外部の相談窓口があることを契約時に説明している。	ホームでは毎月便りを発行し、個別に写真や一言を添え日々の出来事や暮らしぶりの情報を発信している。ホームは家族との顔が見える関係作りを大事にしており、些細な変化も電話を通して家族に伝え、現状と意向を確認しながら家族の安心に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、ミーティングを行ない、きづいた点など話し合い、意見を言い合っている。その他にも管理者に相談しやすいように個別で何かなかったか尋ねたりしている。代表者とも毎月、業務改善委員会を通し、他の管理者とも意見交換をおこなっている。	職員は日常の入居者の言葉や表情を大事に捉え、職員のアイデアを生かしながら支援内容や住環境の課題解決に繋げている。管理者は日常的な支援を通して入居者の状況や職員の声を把握し、必要に応じて法人本部へ備品の整備を働きかけながら、入居者の安心、安全、職場環境の改善に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休や有休がとれるように勤務表を作成し、勤務の体制も他の職員の同意のもと、可能な限り各職員の意見を取り入れ、プライベートと仕事が両立できるようにしている。半年に1回、評価をおこない処遇改善を支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	院内研修はコロナ禍の影響で書面にて各部署でおこなっている。外部の研修では実践者研修など職員の年数に合わせた研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会を2ヶ月に1回おこなっていたが、コロナの状況をふまえながらの開催となっている為、中止の回数が多くなっている。開催時にはいろいろ意見交換や事例検討などをおこなっている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様や家族様と話をとうし、心配事や希望を引き出し寄り添える介護ができる用に心がけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様に、ホームでの状況を報告したりすると共に、家族様の不安・要望など聞き取り、安心して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様と家族様が必要としている支援を傾聴し、利用者様の置かれている状況を見極め、職員間で話し合い福祉用具や必要なサービスを取り入れられるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	仕事や家事の事を相談何ができるか見定め、利用者様と職員が一緒に作業をし、話をしたり楽しめるようにしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会が出来ない状況だが、電話で状況を話したり、窓越しでの会話等をし、家族様との絆を関係が崩れない様に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	牧山医院へ受診した際など、今まで馴染みのあった方と会ったり、ホーム内だけでの馴染みだけではない繋がりが持てる様に支援している。 その他にも、家族のたつての希望で、ご自宅の規制をコロナが終息しかけた際に、院長の許しをいただき実現した。	入居者との寛ぎの場面や家族の話を聞きながら、その方の生活歴や職歴を把握し、これまで大事にしてきた友人との関係性や思い出のある場所の把握に努めている。現在はコロナ禍により外出も困難な状況にあるが、感染状況に応じて個別支援で対応し、その方にとって大事な場所を繋げていく意向で関わりを持っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様のリビングでの席を決める際には利用者様の心身の状況に配慮し、トラブル防止に努めると共に、利用者様との関わりが持ちやすいよう、職員が間に入り話をしやすい環境作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退所等、他の事業所に行かれた際には情報提供などをおこなっている。 家族の要望など、話を聞き必要によって対応するように努め、家族様、利用者様の不安が少しでも取り除かれるように支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活で利用者様の話を傾聴やコミュニケーションをとり、可能な限り要望が聞き取れる様に支援をしている。 その他にも、職員間できづいたことなどミーティングで話し合い、利用者様の思いに寄り添えるようにしている。	ホームでは新たに入居者を受け入れた際には、本人や家族の話を傾聴し、介護記録にその方が発した言葉や職員の関わりを残しながら暮らしぶりの把握に努めている。これまでの日課や生活習慣、こだわりを把握し、職員の新たな気づきを生かしながら、その人らしい暮らしの実現に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供表及びに、家族様や本人様からの今までの生活歴の聞き取りをとおして、サービス利用の経過を把握した上でのケアに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の流れや状態、支援内容を個人記録に記入し記録をとっている。 ミーティングの際等に職員間での情報の共有をし把握できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングをおこない、ミーティングの際には職員でケアプランを点検しより良いものにするように計画担当者が介護計画書に反映させている。その際に家族様や利用者様の要望も取り入れられるように職員で話し合いケアプランに落とし込んでいる。	ケアプラン作成の折には入居者本人の言葉や意向を確認し、本人が発した言葉を書面で確認しながら、心身の機能維持につながるプランを作成している。運動機能に関する内容については、法人内の機能訓練士の助言を受けることもあり、本人が無理なく支援内容を実施できるよう専門性を持った視点で支援を展開している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別で介護記録を記入し、利用者様の状態などをミーティングの際に職員間で話し合い情報を共有し介護計画書に反映出来る様になっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様や利用者様からの思いや要望を聞き、状態をみながら新しいニーズがないかを、ミーティングの際に話し合い、出来る範囲での支援をおこなっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で以前より、地域包括センターやボランティアの訪問が減ったりしているが、来所して頂き、利用者様との話をして頂いたり、地域の高校生の職場体験など受け入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	診療所併設の為、介護者と医療者との連携もとやすく情報共有も密に行われており、必要に応じ適切な医療を受けられる。病院指導のもと、他科の受診もおこない、家族様協力をえながら利用者様へ提供ができています。	共有空間と診察室廊下が隣接していることから法人主治医にかかりつけを変更する家族も多いが、入居時に家族の意向を確認し、家族の意向に沿ったかかりつけ医への受診を行なっている。些細な体調変化を医師と共有することで疾病の早期発見、早期対応に繋げ、家族からの安心感も得られている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の体調や特変時など内線で24時間相談が出来る状態である。月2回の往診時には利用者様の状態を医師、看護師、介護職員で話をし相談がしやすい環境である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された際には、情報提供表を作成し情報提供をおこなうと共に、日々の状態を報告している。 コロナ禍で家族以外の面会出来ない際には、電話での対応や家族様に入院の状態を尋ねたずねたりしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に家族様に看取り看護について説明し、希望を聞いたうえで同意書をいただいている。 病院とも情報を共有をして、重度化した場合や終末期には牧山院長も一緒に家族様に説明をすると同時に今後について話し合いをおこなっている。	医療機関に併設したホームであることからホームでの看取りも可能であり、主治医と状態報告や家族の意向を確認しながら、ホームでできる範囲の支援で対応している。食事摂取が困難となってきた際には食事形態に変化をつけ、本人が食べれるものを準備しながら家族との最期の時間を大切に支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍で研修の機会がないが、全職員、救命救急の研修はうけている。 急変時や事故発生時には牧山医院とすぐに連携がとれるようになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回の消防訓練を行なっている、コロナ禍で地域の方の参加が難しかったり、各部署での開催もあったが、牧山医院や、隣接する法人内の事業所と合同の消防訓練をおこなっている。ホームが洪水浸水想定区域(浸水深0.3未満)に該当するのでそれをふまえた訓練もおこなっていく必要がある。 地域の消防団に職員が入団することにより、協力関係を築いている	ホームでは法人全体での訓練と自主訓練を行い、訓練の度に避難誘導の手順を確認しながら有事の際に咄嗟の行動ができるよう努めている。ホーム玄関先にハザードマップを掲示、防災計画書を整備し風水害発生の行動を確認している。訓練の様子は写真で記録に残すと共に、職員の気づきや課題を次回訓練に生かしながら災害に備え取り組んでいる。	ホームは医療機関や通所事業所の併設であることから他部署からの応援体制も整っているが、避難誘導後の安否確認方法、避難完了の確認方法について課題が窺える。今後、避難誘導後の安否確認方法、避難完了の確認方法について検討し、安全性に繋がる取り組みに期待する。

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の人格が尊重されるように言葉かけをおこない、プライバシーが守られるよう、他の利用者様に漏らさないようにし、他利用者様がいた際などは、個人名を出さない様に配慮している。	ホームでは人生の先輩として入居者との関わりを持ち、個人情報の取り扱いや介護の場面では無理強いしないようタイミングや言葉かけに注意し、支援に努めている。人員配置の都合で同姓介助が困難なこともあるが、入浴や排泄の場面など本人が肌を露出させる場面で注意を払い、誇りを傷つけない支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望や訴えを傾聴し、意思決定ができるよう支援をし、その他にも日々の生活の中でも本人の意思決定が出来る様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の心身の状態を把握した状態で、その方が自分のペースでおこなえるように支援をしている。入浴の拒否や食事の残食などは状態により声掛けをおこない、無理強いをしないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に地域の理髪店より散髪がおこなわれ、利用者様は思い思いに髪型を決められている。洋服なども本人の希望に添えるように支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立表を作成し、似たようなメニューにならない様に配慮をし利用者様にも何が食べたいか尋ねている。誕生日会の際には、本人様が好きだったものを出来るだけ提供出来る様にしている。 食事の準備も、利用者様の能力で出来る範囲での手伝いをされている。	ホームでは入居者の食べたいものや季節の献立を取り入れ、彩や食物繊維の多い食材、食事形態にも配慮しながら心身の健康を保つ取り組みがなされている。食事の際は滑りにくいトレイや、軽さ、取手がついた食器等自助具を準備し、入居者が安心して自力で口に運びやすいよう環境を整え支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を毎食、記録をとっており、食事摂取量が減ってきている利用者様に対しては、牧山医院に相談をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアをおこない、利用者様の能力に合わせたケアを対応している。 月1回の協力歯科医院より、往診があり、状態の確認及びに、指導・助言をいただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を用いて、長時間トイレに言っていない方や排泄パターンを理解しトイレの声掛けをおこなう事により、汚染の回数を減らし自立にむけた支援をおこなっている。 ホームで注文しているオムツのみならず、家族様持ちこみのオムツなどを使用している。	ホームではできる限りトイレでの排泄を促し、成功事例を職員間で共有しながら、入居者が自信を失わないケアに努めている。怪我や病気で一時的にオムツ使用となった入居者も、体調リハビリの回復次第でその都度排泄方法を見直し、一人ひとりの心身の状態を把握しながら排泄の自立を意識し支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く摂りこんだメニューにしたり、排便が無い際には、乳製品や野菜ジュース等の提供をおこなったり体操等で腸の動きが良くなるようにし、自然排便ができるように促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴チェック表を使い、週2回の入浴を実施しているが、利用者様の体調及び気分にて入るのを調整している。 利用者様がゆっくりと入浴が出来る様に順番等を配慮をし、ご自身で入浴が難しい方に対して、2人介助にて浴槽内に入ってもらい、浴槽に入りたくない方には対しても、足浴をしお湯をかけることにより体を温めて頂いている。	ホームでは週2回、1日3人程度の入浴を実施している。入居者が抵抗なく入浴できるよう室温や湯温、声かけのタイミングに配慮し、安心して入浴できるよう取り組んでいる。入居者が安全に安心して湯船に浸かることができるよう、介助者の介護技術や環境を整えながら心身ともに寛ぐ事ができる支援に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠のタイミングは1人1人違う為その方々の時間に配慮をしている。 季節に合わせた寝具を持ち入ったり、ご自宅で使用されていた毛布などを使用し、気持ちよく眠れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医院や薬剤師と連携を取り、変更等があった際には職員間で情報共有に努めている。 薬のセットの際には薬剤師が個人、日付別にセットをして頂き、処方時には利用者様の情報を提供し、新しい薬の処方の際には、薬についての注意点などの指導を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様が出る範囲で洗濯たたみやトレー拭きをして頂き、自己重要感を高めている。 日々の生活でも職員と一緒に昔の歌をうたうなどし楽しみが見いだせる様に支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で車でのドライブをする機会は減ってきているが、桜や紫陽花等、季節の花々が咲いた際にはコロナ対策をし、見に行ったりして利用者様も楽しまれている。 家族様の希望により、利用者様の帰宅を希望された際には、コロナの終息を見計らい、牧山医院へ相談して実行しました。	現在は感染状況に応じて外出支援の困難さもあるが、地元の職員からの情報をもとにホーム周辺を散歩し、季節の花や干し柿などを眺め会話を楽しみながら気分転換が図られている。管理者は今後、状況を見ながら個別支援等に柔軟に対応し行動を広げていきたい意向にある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族より、お金を預かり、ライフ金庫にて保管をしている。利用者様が何か購入を希望した際には、職員が購入したりし、領収書や出納長は定期的に御家族に確認、郵送をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があった際には、電話での会話が出来る様に支援をし。携帯電話についても、本人様が希望をし家族様が同意のもと所持ができ、思い思いに連絡をとれている。 手紙についても、送られてきた際には返信が難しい場合は、写真を撮り御家族に渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや玄関等、季節を感じれるような壁画等をして利用者様に楽しんでいただいている。 共用の空間は、空気清浄器や換気、室温に気を付け、利用者様が快適に過ごせるように配慮をしている。	ホームでは季節の飾り付けを工夫し、温かみのある空間や視覚から季節感を感じさせるよう努めている。トイレの場所や自室など入居者の動線に配慮し、場所の認識が困難となった入居者も目的の場所へ自ら足を運ぶことができるよう、入居者目線の手作りの表札は入居者にも安心感を与え安全安心な暮らしに配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内にソファを設置し、利用者様同士が席を譲りあい話やすく、居心地の良い空間を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご自宅で使用していた物を持ちこんで、思い思いに居室内の空間作りをして居心地よくすごして頂けるように支援している。	入居者それぞれの居室には思い入れのある手回り品を準備し、本人が手の届く高さへの家具の配置や飾りつけで、安心して自室で過ごせるよう努めている。入居者には仏壇の手入れを自ら行う方もおり、本人がこれまで大切にしてきた生活習慣が入居後も継続できるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、風呂場には手すりを設置し、安全に過ごせるようにし、利用者様の生活空間ではじゅうたんを使用することにより、歩きやすくなっている。居室前には名前と写真が書いてある表札を付けることで居室を理解していただいている。		